

- 日 時 令和6年3月25日(月曜日) 午後6時30分～8時30分
- 場 所 武蔵野市役所412会議室
- 出席者 岩本会長、羽田野副会長、安東委員、岩岡委員、久保田委員、後藤委員、佐藤(資)委員、杉本委員、立野委員、西村委員、長谷川委員、福本委員、山本委員、横山委員
- 事務局 健康福祉部長、障害者福祉課長、管理係長、基幹相談支援センター長、相談支援担当係長、基幹相談支援センター係内主査

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 健康福祉部長あいさつ
- 4 配付資料確認

5 議事

(1)日中支援型グループホーム「Life Design つむぎ」の報告について

【会長】

日中支援型グループホーム「Life Design つむぎ」(以下「つむぎ」という。)については、地域自立支援協議会(以下「協議会」という。)で毎年状況を報告していただき共有している。

【社会福祉法人睦月会】

つむぎについて報告。報告内容については資料1のとおり。

【会長】

つむぎは、通常のグループホームと比較していわゆる障害の重度化・高齢化に対応したグループホームである。これまでのグループホームでは、日中は他の事業所に通所するという形だったが、つむぎは利用者の状況に応じて外部の事業所も利用できる。利用を希望している待機者はいるか。

【社会福祉法人睦月会】

現在は待機者はいない。

【委員】

他の自治体から利用者を受け入れているとのことだが、日中に外部の事業所を利用する場合には、グループホームの近くの事業所を利用するのか、それとも居住地の事業所を利用するのか。

【社会福祉法人睦月会】

主に西東京市にある就労支援B型と日中生活介護の事業所に通所している。

【会長】

西東京市にある事業所は1か所か。また事業所の運営は睦月会か。

【社会福祉法人睦月会】

睦月会が3か所、別法人が1か所である。

【委員】

いろいろな事業所から働き手が足りないという話を聞くが、つむぎの状況はどうか。緊急時の体制はどのようにしているか。

【社会福祉法人睦月会】

職員が足りない場合には、法人内の他施設から職員が応援に来るなど、法人内で連携することで必要な人数を確保している。

【委員】

利用料はどれくらいか。定員に空きが出た場合の募集方法はどのようにしているか。職員体制の人員にはバックアップ体制の人数も含んでいるか。有資格者はいるか。

【社会福祉法人睦月会】

利用料は家賃51,000円、光熱水費7,000円、日用品費5,000円、食費は実費としている。光熱水費、日用品費は3か月ごとに実費と照らして精算している。利用者の募集は法人本部で一括して行っているが、医療的ケアが必要な重度障害者や高齢者を受け入れる施設なので、一般公簿はあまりしておらず、条件に合った方を個別に繋いでもらっている。職員体制はつむぎのみの人数で、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士等の資格を持った職員が5名いる。

【会長】

市の相談支援体制やネットワークについて、課題に感じることはあるか。

【社会福祉法人睦月会】

開所から年数が浅いことや地理的な条件から他事業所との交流が少ないので、交流の機会を増やして情報を得られるようにしていきたい。

【会長】

入所希望者の選定について、法人とつながりが無い方からのニーズがあるかもしれないので、可能な範囲で検討してほしい。市や協議会では、相談支援のネットワークとして様々な協議を行っており、つむぎは貴重な社会資源なので、そのような交流や意見交換の場にも参加いただき、連携しながら取り組んでほしい。

(2) 武蔵野市地域生活支援拠点等事業の事業報告

【事務局】

武蔵野市地域生活支援拠点等事業（以下「拠点事業」という。）は、今年度から始まった新しい事業である。市が実施主体となり、社会福祉法人武蔵野に拠点コーディネーターの配置を委託している。委員の皆様から意見をいただき、来年度より良い事業にしていきたい。

【社会福祉法人武蔵野（拠点コーディネーター）】

拠点事業について報告。報告内容については資料2のとおり。

令和5年度は相談支援機能の整備や緊急時体制の整備に取り組み、令和6年度から段階的に機能を拡充していく。地域の体制づくりとして、地域課題を吸い上げていくというところで、協議会とも連携して取り組んでいく。

【会長】

拠点会議に参加している委員がいれば意見を聞きたい。

【委員】

新たに始まった事業なので、何をもってハイリスクとするかなど、どのように対象者を選定するかがまだはっきりとしていない。

【会長】

今年度始まったばかりでモデル事業的な要素もある。対象者を選定する上で押さえておくべきポイントなど、実際に事業を進めていくことで見えてくる部分もある。ハイリスクの見定め、アセスメントといった部分が、形作られていくと良い。拠点事業はわかりづらい部分があるので、今後も経過を報告してもらいたい。ハイリスクの要因については、障害当事者の要因以外にも支援の不足等の様々な要因が相まってハイリスクになっていくので、説明資料もそうした構造がわかるように記載した方が良い。

(3) 3月11日開催 全体会の振り返り

【会長】

3月11日に開催された全体会の振り返り及び各専門部会の活動状況について、各委員から発言いただきたい。

【委員】

Aグループでは、親会や専門部会の開催時間について、夜間に限らず昼間に開催するなど、誰もが参加しやすい協議会の在り方を検討すべきだという意見が出た。

【委員】

開催時間を見直すことで会議に参加しやすくなるのであれば、見直しを検討する必要がある。

Bグループでは「つながる」を大きなテーマとしてグループワークを行った。メンバーの中には、いろいろなところにつながりを持っている方がいて、様々な形につながりがあることを教えてもらった。地域で当事者のことを理解してくれる人を増やすことが大事だという意見もあった。相談支援部会でも「つながる」がテーマになっており、事例を通してつながることの大切さを共有している。どのように「つながる」を実現していくかが今後の課題だと考えている。

【委員】

出席者からのコメントにもあるとおり、子ども時代に当事者と交流する機会が少ないので、子ども同士が普段から交流できる機会をつくっていくという視点も大切だと感じた。Bグループでは、イベント等の情報発信について、SNSや市報だけではなく、市や協議会としてもっと発信した方が良いという意見があった。

【委員】

開催時間について、当事者部会では日中に開催していたが、通所している部会員もいるため、現在は夜間に開催している。一方で、日中に開催すれば子どもでも参加できるといったメリットもある。Cグループでは、「つながるための居場所」というテーマについて話した。私が参加している居場所で、誰が居てもいい、そこに居るだけでいいという居場所が30年以上続いており、健常者、障害者、子ども、外国人といった様々な人が集まって近況報告をしたり歌ったりしている。そのような居場所が増えれば良いと考えている。

【委員】

Cグループでは、「居場所」や「つながり」といった従前からの地域課題を見つめ直す内容もあれば、最近では当事者の親の間でSNSのつながりが主流だという話題もあり、時代とともに形が変わっているということが興味深かった。大きなテーマは変わらなくても、少しずつ形は変化していくのだと思う。楽しいことをしようというシンプルな発想はとても大事だと思う。当事者部会で人が集まらなくて困っているという話もあるので、ふれあいカフェなどの草の根的な活動も大事にしていく必要がある。

【委員】

ネットワーク部会でも「居場所」や「つながり」がテーマになっている。全体会で話を聞く中で、地域活動支援センターとして、当事者がやりたい活動をどのように応援していくべきか考えるきっかけとなった。何かをしてあげるだけではなく、当事者がやりたいと思うことを応援するという形もあるのだという気づきがあった。

協議会の開催時間については、様々な時間帯を試してみるのも良いと思う。日中なら傍聴できる方もいるのではないかな。

【委員】

地域移行部会に所属しているが、コメントシートの中で好意的なコメントをいただいているので、期待に沿えるように活動していきたい。Cグループの参加者からは、つながるための場所として、フォーマルな場所だけではなくインフォーマルな場所も欲しいといった意見があった。

【委員】

全体会を対面で開催できたことでグループワークが盛り上がったので、今後も対面で開催した方が良いと感じた。Dグループでは、障害のある方にどのような配慮が必要かという情報をいかに知ってもらうかが大切だという話があった。計画に基づいて協議会の活動を進めていくことは大事だが、その取り組みをどのように発信していくかも大切だと感じた。当事者や関係機関に向けた発信だけではなく、地域の中に様々な方が暮らしているという情報発信も必要である。

【委員】

親会も部会も、開いていく努力は必要だと感じている。それぞれとても良い活動をしているので、そうした情報をより広げていくことが大切である。今後の部会運営について、委員同士でコミュニケーションを取りながら進めていきたい。

【委員】

Dグループでは、この20年で障害者に関する様々な法律が整備されたが、社会はあまり変わっていないという声があった。例えば、関係者以外は法律を知らなかったり、就労をしても業務時間以外では関係性を築けていなかったり、本当の意味でのインクルーシブはまだ進んでいないという意見があった。障害の有無に関係なくすべての人が社会の中で一緒に暮らしていくことが今後の課題だと感じている。

【委員】

全体会では、なかなか新しいつながりができないという声や、楽しい場所に人が集まるといった会長のコメントが印象的だった。毎年10月にスポーツフェスティバルが行われているが、総合体育館の改修工事が始まるので、改修後の体育館で車いす競技等を観戦する企画があれば良いと思い提案した。

【委員】

グループワークで「つながり」という言葉がたくさん出てきたが、そういった言葉が無くても自然につながりができる社会になれば良いと感じた。

【副会長】

実際に顔を合わせて互いの意見を聞く機会は貴重なので、今後もこのような対面の形で続けていきたい。

【会長】

皆様の発言や全体会のコメントについて、協議会の本来の役割とは何かを改めて考えるきっかけになったので、今後の活動にどのように生かしていくかが大切だと考えている。開催時間について、ベストな答えは無いが、各会議体がより良い形になるように話し合った上で決めるべきだと思う。夜間でなければいけないということはないので、部会員に意見を聞いてみるのも良いと思う。資料3について、専門部会について様々なコメントがあるので、各部会に持ち帰って来期の活動に生かしてほしい。「つながる」という言葉がキーワードとして出てきたが、良い体験談も多くあった。そうした事例をまとめて協議会として示していくのも良い方法だと思うので、各部会で良い事例があればまとめてみてほしい。

当事者部会ではなかなか当事者の参加が広がらないと聞いているが、親会として取り組めることはあるか。

【委員】

いきなり当事者部会に誘うのではなく、様々な活動を通して関係性を築いてから当事者部会に誘った方が参加しやすいのではないかと。例えば、ボッチャの活動をやっている団体があるので、そうした場を活用できないか。難病等で外出できない方もいるので、オンライン参加を取り入れるなど、参加者が偏らないような工夫も必要である。

【会長】

開催時間の話でもあったように、月1回会場に集まるだけではなく、多様な開催形態を模索していく必要がある。今までどおりでは限界があるので、柔軟に考えていく必要がある。

(4) 武蔵野市障害者計画・第6期障害福祉計画の進捗について**【事務局】**

資料4について説明。

【委員】

事業番号5「障害者差別解消の推進」について、障害者差別解消支援地域協議会を開催しているとのことだが、地域自立支援協議会の交流集いプロジェクトも同様の視点から啓発に取り組んでおり、住まい部会でも同様の活動があったと思うので、今後こうした活動が相互に連携していければ良いと思う。

【事務局】

どのような連携ができるか、皆様からも意見をいただきながら来年度の活動に生かしていきたい。現在の差別解消支援地域協議会では、障害者福祉課に寄せられた差別

解消や合理的配慮に関わる相談事例について、行政機関や高齢分野、警察、保健所などが共有するといった形で、虐待防止連絡会とセットで開催している。実態調査では、差別解消法が当事者にあまり知られていないといったデータもあるので、周知・啓発についての意見があれば活動に反映していきたい。

【委員】

事業番号7「ヘルプマーク・ヘルプカードの普及・啓発の推進」について、以前に当事者部会でヘルプマーク・ヘルプカードについて説明するチラシを作成したので、活用してほしい。

【事務局】

ヘルプマークに比べてヘルプカードの希望者が少ないので、引き続き周知・啓発に取り組んでいきたい。

(5) 武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の策定について

【事務局】

2月の専門部会でいただいた意見を反映した上で、3月5日に市長に答申を提出した。市として答申を尊重して計画を策定する。今後、本冊、概要版、わかりやすい版、読み上げソフトに対応したテキスト版を公開予定である。

(6) 令和5年度版「東京都内の自立支援協議会の動向」調査について

【事務局】

東京都では、都内各自治体の地域自立支援協議会の活動内容を取りまとめた冊子を作成している。冊子を作成するにあたり、市の本年度の活動内容について事務局で案を作成したので、内容を確認の上、修正等があれば連絡いただきたい。

6 その他

7 閉会

— 了 —